

小学校6年生 郷土学習資料

わたしたちのまち 日野町

【歴史編】



長楽寺 木造薬師如来像 (国指定重要文化財)

日野町教育委員会

も く じ

1	“ふるさと日野町”を勉強しよう!	・・・	1～2
2	“ふるさと日野町”の歴史!		
①	長楽寺	・・・	3
②	長谷部信連	・・・	4
③	滝山神社と竜王滝	・・・	5
④	金持景藤	・・・	6
⑤	黒坂要害山	・・・	7
⑥	黒坂の町と鏡山城	・・・	8
⑦	お墓さん、絵図	・・・	9～11
⑧	カワコ岩	・・・	12
⑨	本陣の門と宿場町の面影、絵図	・・・	13～14
⑩	四十曲峠と板井原宿	・・・	15
⑪	近藤家と歴史民俗資料館	・・・	16
⑫	たたら製鉄の流れ	・・・	17～19
⑬	川舟の碑	・・・	20
⑭	養蚕記念碑	・・・	21
⑮	因藩二十士と泉龍寺	・・・	22
⑯	生田長江顕彰碑と延暦寺	・・・	23
⑰	上菅駅記念碑	・・・	24
※	○番号の場所は、左ページの地図中の○番号の所です。		
3	“ふるさと日野町”の人物!		
・	和鉄生産を全国一に	近藤 喜八郎	・・・ 25
・	日本海運界に貢献	加藤 正義	・・・ 25
・	養蚕で町を活性化	緒形 弘義	・・・ 26
・	英字新聞一色の生涯	頭本 元貞	・・・ 26
・	ニーチェを翻訳	生田 長江	・・・ 27
・	従軍画家で戦地へ	小早川 秋聲	・・・ 27
・	米漫画賞に名前	木山 義喬	・・・ 28
・	蝶研究と山岳写真	田淵 行男	・・・ 28
4	歴史年表	・・・	29～30
5	指定文化財一覧	・・・	31

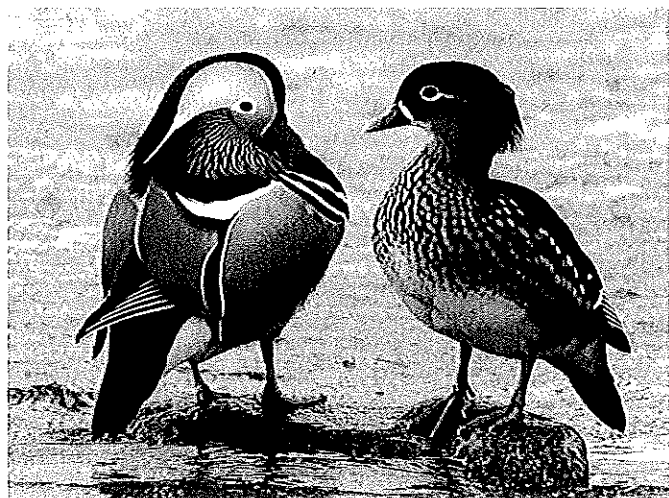
“ふるさと日野町”を勉強しよう!

私たちの住んでいる日野町は、豊かな自然に恵まれ、古くから栄えてきたまちです。町内には、昔を伝える貴重な文化財や史跡が多く残っています。

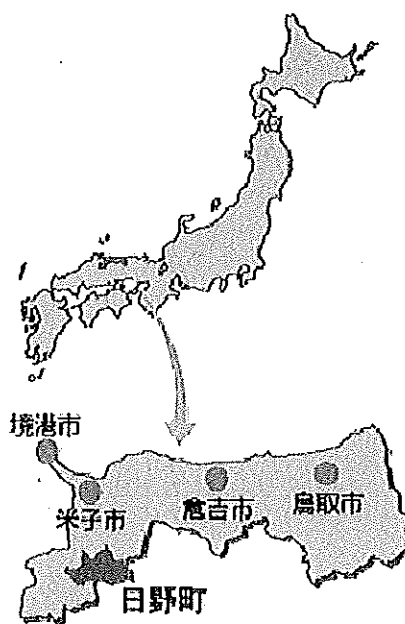
また、交通の要所であり、日野郡の中心部として商業や農林業が栄えてきました。町内にある文化遺産や産業の良さを知り、みんなで“ふるさと”を大切に、これからの日野町をさらに良くしていくためにこの冊子を作りました。

この冊子をきっかけとして、私たちの“ふるさと日野町”を見直し、歴史について学び、後の世代に受け継いでいきましょう。

これからの主役はあなた達なのです。



「オンドリ」は、日野町の鳥、鳥取県の鳥に指定されています。



日野町は、鳥取県の西南部に位置し、東西20km 南北12.5km、総面積134.02km²、そして岡山県、江府町、伯耆町、日南町に接しています。

歴史は古く、黒坂、下榎、岩田、平ラ、榎市などに古墳が分布していることから、弥生時代にはこの地に人が住んでいたことが分かります。4～6世紀頃になってさらに多くの人々が定住したものと考えられます。

平安時代には京文化が伝えられ、戦国時代には尼子、毛利氏が争う戦場にもなりました。

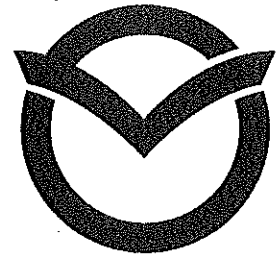
江戸時代には城下町黒坂が生まれ、根雨と板井原に宿場も形成されて、農業も生産拡大が図られました。また、たたら製鉄は、大正時代ごろまで、この地域の重要な産業でした。

この地域は、1889(明治22)年の町村制施行により、根雨、真住、渡、安井、黒坂、菅福の6か村に分かれていましたが、1913(大正2)年には根雨、日野、黒坂の3村となり、1953(昭和28)年に根雨町、日野村が合併。1959(昭和34)年、さらに黒坂町が合併して現在の日野町が誕生しました。

■ 町章 (1960 (昭和 35) 年4月制定)

町章は、日野町の「ヒノ」を図案化したもので、つばさは躍進を、円は町民の協調を意味し、町の限りない前進と発展を象徴しています。

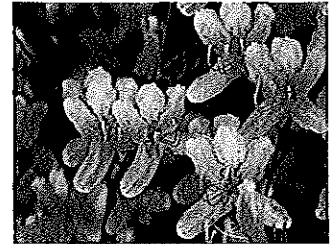
また、鳥は鳥取県を、円は日野郡の中心をも表しています。



■ 町の「花」「木」「鳥」

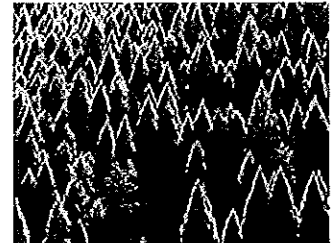
町の花：ツツジ (1978 (昭和 53) 年1月制定)

ツツジ科の落葉低木で、奥日野県立公園である滝山公園にはミツバツツジ、寝覚峡にはキシツツジが群生しています。



町の木：スギ (1978 (昭和 53) 年1月制定)

スギ科の常緑高木で、良質の木材になるため、町内で盛んに植林されています。



町の鳥：オシドリ (2009 (平成 21) 年11月制定)

カモ科の渡り鳥で、町内でも、秋から春先にかけて日野川やオシドリ観察小屋 (根雨) などで、色鮮やかで愛らしい姿を見ることができます。



■ 町民歌：「きらり この町」

1999 (平成 11) 年、町制施行40周年を記念して町民歌を制定しました。

作詞：平尾正人 作曲：丸山和範

1. さわさわと

そよ吹く風に ツツジ揺れ
ときめき きらり この町の
移ろう季節 鮮やかに
自然が 四季が 明日がある
このふるさとに 生れたことを
愛する子どもに 伝えたい
心のふるさと ここは日野

2. さんさんと

注ぐ陽射しに 鮎が跳ね
輝き きらり この町の
育む歴史 悠々と
ロマンが 大地が 明日がある
このふるさとに 住んでいることを
愛するあなたに 伝えたい
心のふるさと ここは日野

3. ほのほのと

みんなの笑顔 鴛鴦 (とり) が舞う
人の輪 きらり この町の
心の絆 生き生きと
未来が 夢が 明日がある
このふるさとに 生きていることを
愛するみんなに 伝えたい
心のふるさと ここは日野

“ふるさと日野町”の歴史

ちょう らく じ
長 楽 寺

教科書 P.38 ~

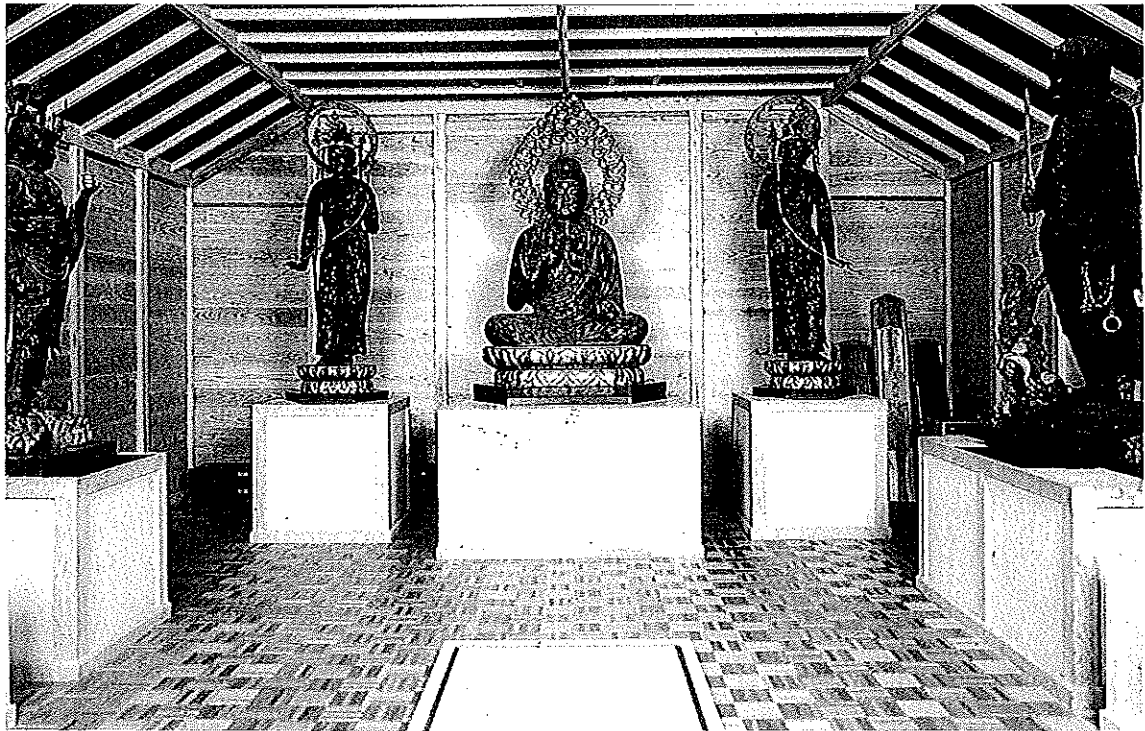
じゅえい
寿永年間(1182~1185年)、長谷部信連が金持から下禰に移り、古寺という地に再建したといわれています。その後、火災にあい、現在の場所に移転されました。

やくしにょらい
寺の本尊である薬師如来像などの仏像は、国の重要文化財に指定されています。

ごうてんじょう
また、本堂の格天井(木を格子状に組み、その上に板を張った天井)には、元禄時代(1688~1704年)に、狩野派絵師の法橋索準が描いた天井絵が、今も鮮やかな色彩で残されています。

【国指定重要文化財】薬師如来像と日光・月光菩薩像、毘沙門天像、不動明王像

【町指定有形文化財】十二神将像



左から、毘沙門天像、日光菩薩像、薬師如来像、月光菩薩像、不動明王像

は せ べ のぶ つら 長 谷 部 信 連

教科書 P.38 ~

長谷部信連は、平安時代末期から鎌倉時代初期の武士で、高倉宮以仁王に仕えていました。1180(治承4)年、平家を追討しようとする王の計画が発覚し、平家の軍兵に宮殿を襲われたとき密かに王を脱出させ、単身奮闘しましたが捕えられ、伯耆国日野郡金持村(現在の金持)に流刑されました。「平家物語」や「吾妻鏡」などにその名があります。その後、下榎に移り住みましたが、7年間日野の地に暮し、家来と共に開拓につとめました。この間、都を懐かしみ、延暦寺や賀茂神社、祇園神社を建立したほか、多武の峯(塔の峰)を名付けるなど、京都文化を導入したのです。下榎1区の西端には屋敷跡があります。東西85m、南北70mの広さで、堀の跡や建物の礎石が残っています。

平家が滅亡したのち、源頼朝は信連の功績をたたえ、安芸国の檢非違使に任命し、能登国のうち9郷を与えました。この地で、山中温泉を開発したとも伝えられています。1218(建保6)年、72歳で亡くなりました。

※以仁王・・・第7代後白河天皇の第3皇子。平家追討の命令を全国の武士に出しましたが失敗しました。しかし、このことがのちの平家滅亡につながりました。

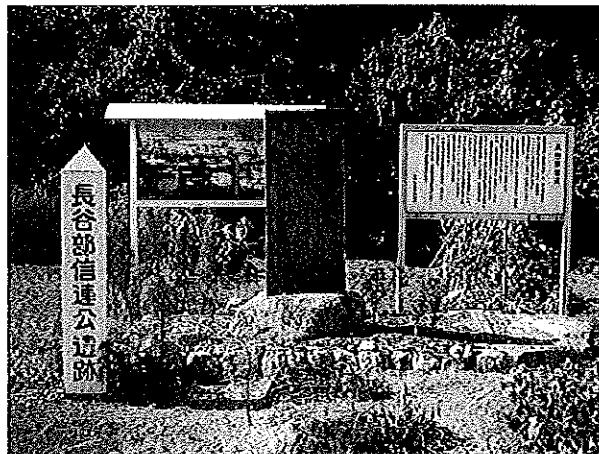
※伯耆国・・・鳥取県の西部の旧国名。伯州ともいわれます。

※流刑・・・罪人を都から遠い辺地や離島に追放する刑。

※安芸国・・・広島県の西部の旧国名。芸州ともいわれます。

※能登国・・・石川県の北部の旧国名。能州ともいわれます。

※檢非違使・・・警察官や裁判官を兼ねたような役人。



下榎1区にある、長谷部信連屋敷跡

たき やま じん じゃ りゅう おう だき 滝山神社と竜王滝

滝山神社の祭神は三穂津姫命みつほつひめのみことです。もとは「龍王権現りゅうおうごんげん」といわれており、平安の昔に建てられたと伝えられています。

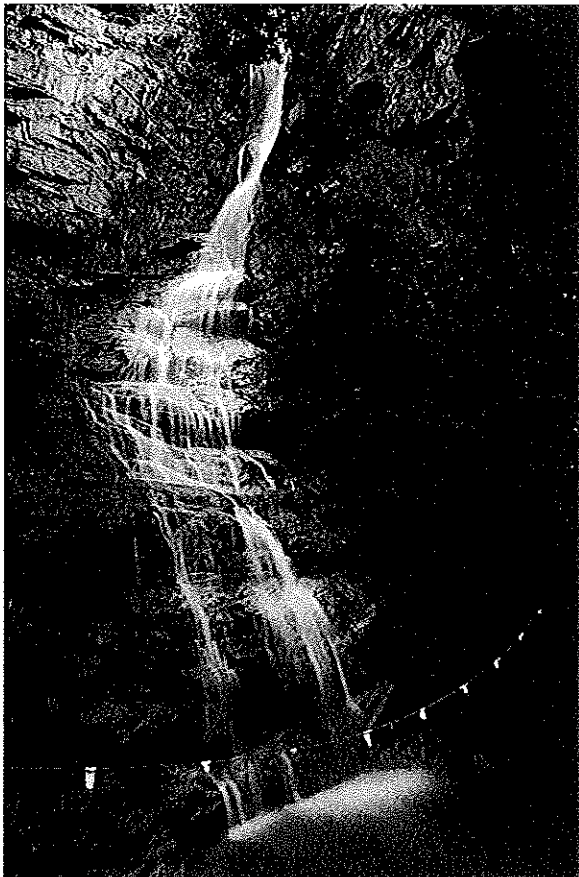
神社の右手には、水が涸れたことのない竜王滝（高さ約50m）の滝があります。この滝は、その伝説によって、別名「幽霊滝ゆうれい」とも呼ばれています。小泉八雲こいずみ やくもの「諸国奇談しょこく きだん」の物語のひとつとして紹介されてから、一躍有名になりました。

周辺は奥日野県立公園の一画であり、季節ごとに素晴らしい景色が楽しめます。1994（平成6）年には、公園が整備されましたが、老杉が続く参道さんげんは森厳な聖域を感じさせます。

※祭神・・・神社に祭られている神

※森厳・・・身が引き締まるようにおごそかな様子

※小泉八雲・・・（1850～1904年）明治時代の文学者。アイルランド人（父）とギリシャ人（母）を両親に持ち、1896（明治29）年日本に帰化し日本人と結婚し、数年間、松江で暮しました。



竜王滝（別名：幽霊滝）

「竜王滝の伝説」

てんによ
～天女のはなし～

昔、日照りが続いて困った村人の代りに、殿さまが7日間お祈りをしたところ、美しい天女が現れ「山奥にある滝を見つけ、そこに祠ほくらを建てて三穂津姫命みつを祀まつれば、願いを叶えることができる」とお告げがありました。そこで殿さまは、滝の側かなに神社を建て熱心に祈願したところ、この里の人々は幸せに毎日を過ごすことができたという。

てんく
～天狗のはなし～

昔、中菅村のお勝さんが仲間かと賭けをして、夜に滝山神社に行く。天狗に警告されながらも、賽銭箱さいせんを持ち帰ったところ、背中におんぶしていた赤ん坊の首がなくなっていたという。

かもち かげ ふじ 金 持 景 藤

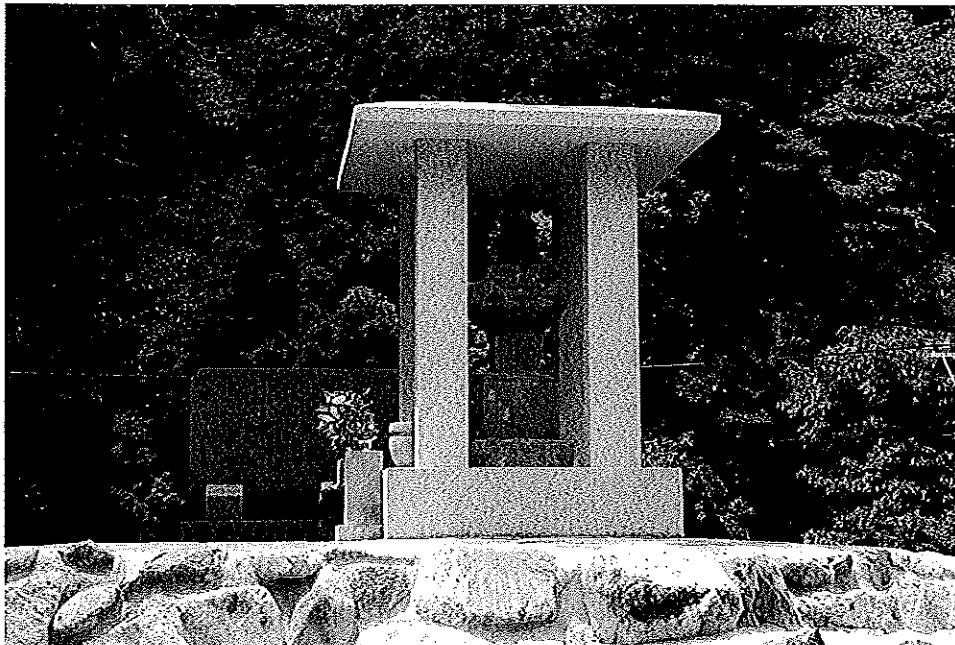
教科書 P44 ~

金持城は、豪族金持氏きよじょうの居城であったと伝えられています。1333(元弘3)年、
隠岐の島に流されていた後醍醐天皇ごたいごてんのうが脱出し、船上山せんじょうざん(琴浦町)に兵を集めて軍事行
動を起こしたとき、景藤はすぐに金持党300騎を率いてこれに参加しました。出発前
は、金持神社ひっしやう きがんに必勝を祈願し、神前の幕とぼり(帷)を軍旗ぐんきにしたと伝えられています。

景藤の墓と伝えられている石塔ほうきやういんとう(宝篋印塔といわれている)が、金持の南端にあり
ます。その様式は室町時代(1338~1573年)のものと見られています。

※後醍醐天皇・・・第96代天皇。1332(元弘2)年、鎌倉幕府を倒そうとしまし
たが失敗し、隠岐に流されました。翌年、建武の新政に成功し
ましたが、足利尊氏あしかがたかうじの謀反おぼんによって、約2年で新政府は倒れてし
まいました。

1339(暦応2)年、吉野(奈良県中部)で亡くなりました。



金持景藤の墓と伝えられている宝篋印塔

くろ さか よう がい さん 黒坂要害山

教科書 P44 ~

要害山は黒坂の町の北方にあり、標高^{ひょうこう}360m余りの山です。山の峰^{みね}に二段の平地があり、要所に堀切の跡があります。

北東には険しい山が続き、南西には天郷川^{てんこうがわ}をひかえ要害を形成しています。ここは、日野郷^{ひのこう}の豪族^{ごうぞく}、日野氏^{ひの}の居城^{きじょう}であったと言われています。日野義行^{よしゆき}・義泰親子^{よしやす}は、名和長年^{なわながとし}、金持景藤らとともに船上山の戦いに参加したと言われています。

※要害・・・敵を防ぐのに便利な地形がある場所

※居城・・・住んでいる城



要害山の遠景

黒坂の町と鏡山城

教科書 P72 ~

1610(慶長15)年、関長門守一政が伊勢国(三重県)亀山から黒坂に転封され、鏡山城を築き、城下町黒坂のまちづくりが始まりました。あたりは沼沢や竹木が茂っていて、とても人が住める状態ではなかったといひます。山を削り沢を埋め立てて平地をつくりました。上流から、郡町、生山町、中町、黒坂町、榎町、北町、落町、鍛冶町という7つの町割りをしました。今でも区割りが同じです。町を囲むようにあるお寺や神社は、敵が攻め込んできたとき、防御のための砦として使えるよう配置したといわれています。

一政は、1618(元和4)年まで5万石の大名として在城しましたが、世継ぎ争いのため領地没収となりました。1632(寛永9)年には、池田光仲が因幡(鳥取県東部)と伯耆(同西部)を合わせて領有しましたが、黒坂は重臣に任され、代々福田氏が統治しました。これを、自分手政治といひます。

福田家給所(統治した村)

黒坂郷4か村・・・久住、横手、黒坂、下黒坂

下菅庄5か村の内2か村・・・中菅、下菅

下榎庄7か村の内5か村・・・小河内、下榎、榎原、印賀原、久谷

安井庄8か村の内2か村・・・安原、津地

※日野町内の他の村は池田家領

※伊勢国・・・三重県の大牛。勢州ともいひ。

※転封・・・大名を他の領地に移すこと。



鏡山城址

お墓さん

鏡山城址北方の山麓さんろくに、「お墓さん」と呼ばれる、福田家の4代・久武ひさたけと8代・久寧ひさやす、家老の山上半太夫やまがみはんたゆうの墓があります。

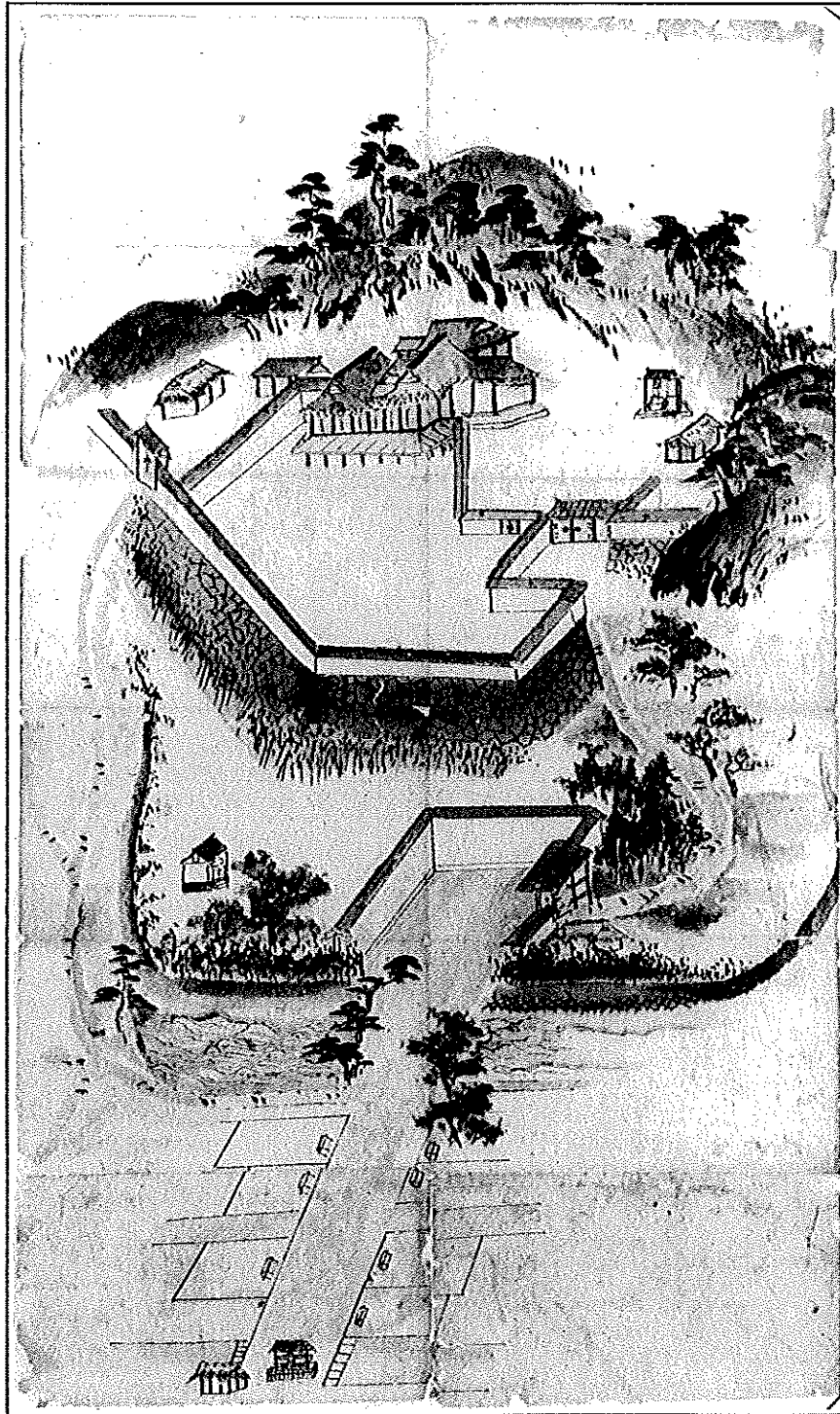
福田氏ごじとうさま（その当時「御地頭様」と呼ばれていました）は、普段は鳥取に住み、黒坂陣屋じんやしるぶぎょうに城奉行として家老を置いて政治を行っていました。当時の家老・山上家は、大変な権威を持っていたそうです。

なお、福田家の墓は代々鳥取市の一行寺いちぎょうじにありますが、遺言ゆいごんによって分骨ぶんこつされ、黒坂まいそうに埋葬されたと言われています。

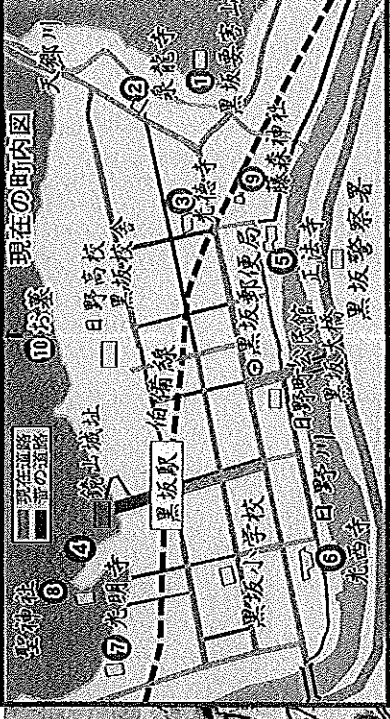
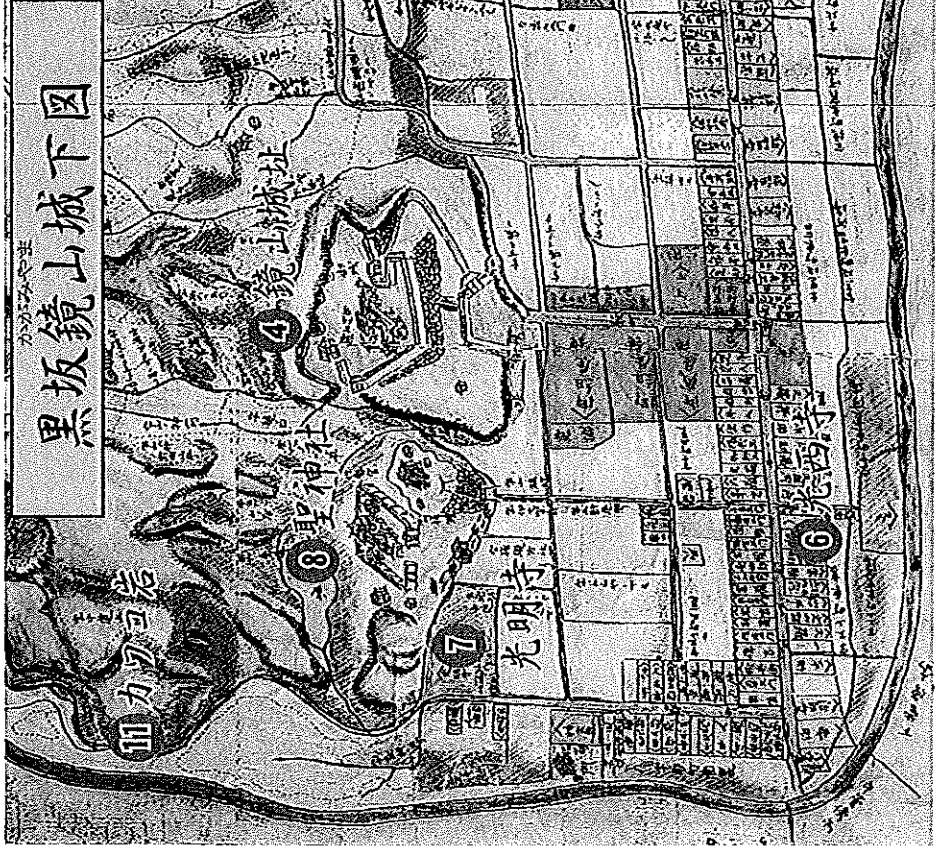


大人の身長身長の2倍ほどもあるお墓さん

黒坂陣屋絵図



福田家が作製した黒坂陣屋絵図
(原画 鳥取県立博物館 蔵)



鏡山城と関連年表

1600	慶長5年	関ヶ原の役
1603	慶長8年	家康征夷大将軍にて
1610	慶長15年	関一政五万石にて
		黒坂の地に駐封となる。
1615	元和元年	5月豊臣氏滅亡
1617	元和3年	池田光政領となり、池田長政が入る。
1632	寛永9年	池田光仲の重臣榎田氏が黒坂陣屋に入る。
1869	明治2年	郡政所となる。

文化19年(1815)頃 榎田家による修築

カワコ岩 いわ

光明寺こうみやうじの南に「カワコ岩」があります。「カワコ」とは、カッパのことです。

黒坂にある松がほうきけわ（川べりの非常にしも陰しく危ない場所）の下に光明寺というお寺があります。いつのころからか、この寺に一人のお坊さんほうが住んでいました。

ある日の夜、この近くを歩いていた人が、何者かに殺されて川に投げ込まれてしまいました。それから、誰だれが言うこともなく「松がほうきを流れる日野川の深い淵ふちにはカワコが住んでいて、人を引き込んでしまうんだ。」と言うようになりました。

ある夜、小河内おごうじの人が黒坂へ出ようとしてここを通りかかると、うわさどおりにカワコが襲おそいかかってきました。その人は運良く逃げて光明寺へかけ込み、助けを求めました。そこで、とても力自慢のお坊さんは、すぐにカワコを追いかけて捕まえ、悪いことをやめるよう説教せつきょうをしました。そして、「この下の岩にカワコの像さざを刻みつけるので、この像がある間は決してここへは来てはいけない。これからどんなことがあっても、悪いことをしてはならない。」と強く注意をして、他のところへ追い出してしまいました。

カッパは、それから二度と出なくなりましたが、カワコを刻みつけた跡あとは、今でもその岩に残っていると言います。

この民話は、「光明寺のかっぱ」としてアニメーション化されています。

～伝説に語られるカッパの主な特徴～

- ・身長はほぼ3尺（1m）くらい。
- ・首から足先までの長さしんしゅくと片腕の長さがほぼ同じ。
- ・腕は伸縮自在で、片方の腕を押すと倍近くも伸びた。
- ・甲羅こうらはスッポンと同じ。
- ・生臭いにおいがし、そのにおいが体に付くと3日間は消えない。
- ・体がヌルヌルとあみしていて、投網とらでも捕えることができない。
- ・頭上の皿の水が無くなると元気がなくなり、皿の中に酒が入ると動けなくなる。



カワコ公園にあるカッパの像

ほんじん もん しゆくばまち おもかげ 本陣の門と宿場町の面影

教科書 P.72 ~

根雨は、^{しじゅうまがりとうげ}四十曲峠を^{みまさか}通って美作（岡山県津山市周辺）へ通じる^{いずもかいどう}出雲街道の中のひとつの宿場町で、交通の大切な場所としてひらけました。

江戸時代には、出雲街道は^{かみがた}上方（京都方面）へつながる大切な道として^{まつえはんしゅ}松江藩主（殿様＝大名）が^{さんきんこうたい}参勤交代の時に通る道となりました。

松江藩主は、通行の途中で必ず根雨にとどまり、休むことにしていたので、根雨は宿場町として^{さか}発展し^{ほんじん}栄えました。大名が泊まった宿を「本陣」といい、その門が現在も残っています。1979（昭和54）年に町の有形文化財に指定されました。

また、長い年月の間に宿場町としての^{まちな}町並みもすっかり変わってしまいましたが、その一部（^{こうしや}近藤家や日野町公舎の^{まちな}辺り）が古い宿場の様子を残しています。この町並みは、1997（平成9）年に「鳥取県民の建物100選」に選ばれています。

※参勤交代・・・江戸幕府が大名に課した義務の一つで、大名が領地を離れ、江戸に一定期間住まわされた制度。大名行列にはお金もかかり、大名にとっては大きな負担でしたが、道路や宿場が整えられ、町が発展するという利点もありました。

大名行列が1日に進める距離は、およそ10里（約40km）だそうです。なお、松江から江戸までは25日もかかったといわれています。



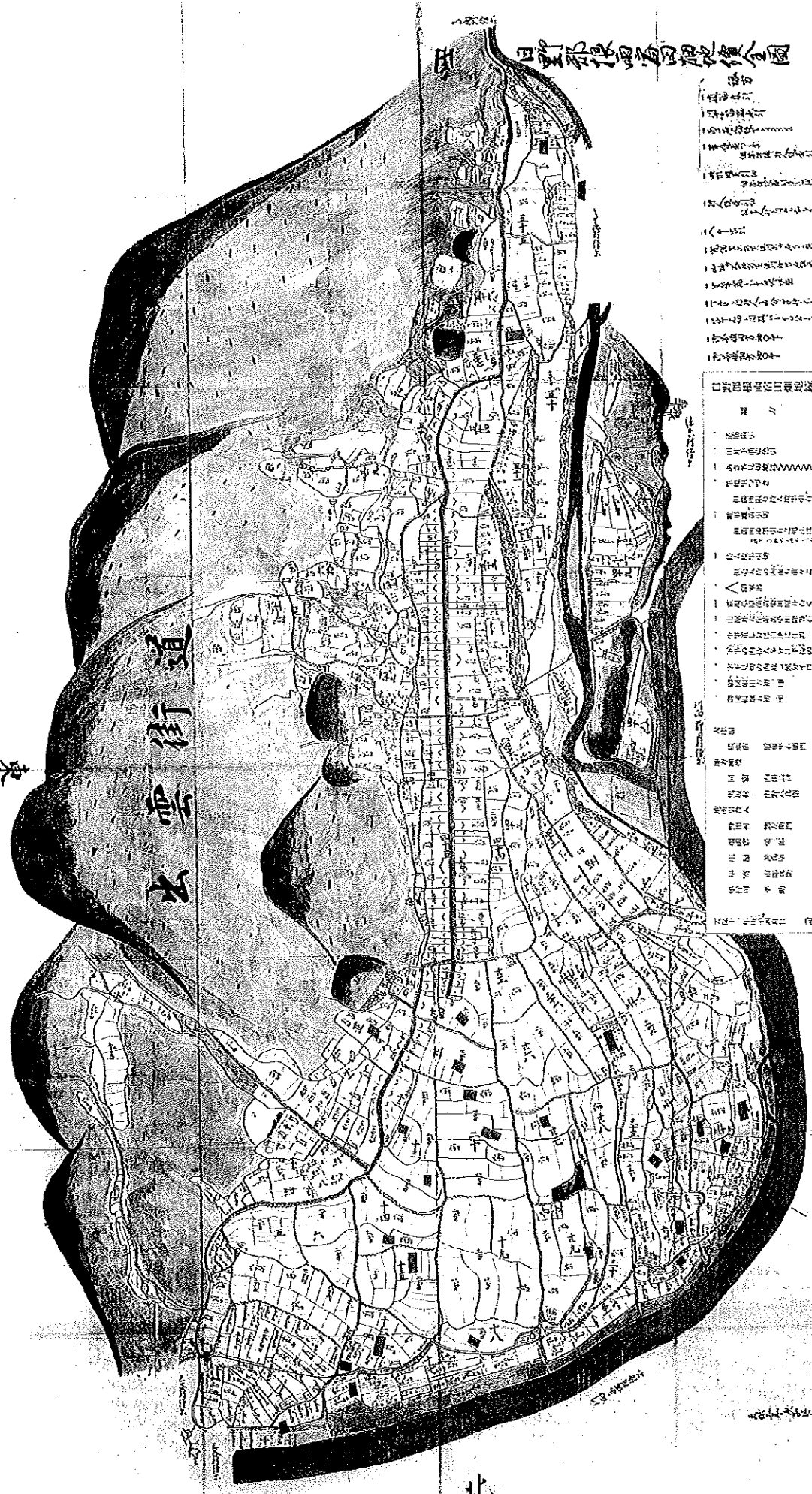
本陣の門（町指定有形文化財）



根雨宿の町並み

日新報附刊地圖

東
雲街
道



1. 公園
 2. 學校
 3. 醫院
 4. 俱樂部
 5. 銀行
 6. 商店
 7. 住宅
 8. 工廠
 9. 碼頭
 10. 車站
 11. 公園
 12. 學校
 13. 醫院
 14. 俱樂部
 15. 銀行
 16. 商店
 17. 住宅
 18. 工廠
 19. 碼頭
 20. 車站

1. 公園
 2. 學校
 3. 醫院
 4. 俱樂部
 5. 銀行
 6. 商店
 7. 住宅
 8. 工廠
 9. 碼頭
 10. 車站
 11. 公園
 12. 學校
 13. 醫院
 14. 俱樂部
 15. 銀行
 16. 商店
 17. 住宅
 18. 工廠
 19. 碼頭
 20. 車站

北

しじゅうまがりとうげ いた い ばらじゆく
四十曲峠と板井原宿

教科書 P.72 ~

この峠道は、古くから新庄、津山に通じる重要な道として利用されてきました。後鳥羽上皇や後醍醐天皇が隠岐に流されるときも通ったといわれています。江戸時代になると参勤交代の道として、出雲松平候が必ずここを経由して江戸に向かいました。

峠のふもとから頂上（標高770m）まで、40数回も曲った険しい道が続いたといい、「東の箱根、西の四十曲」といわれるほどの難所でした。旅行者は息を切らせながら徒歩で坂道を登り、荷物は馬で運びました。頂上に行くまでに、数か所の茶店もあり、とても繁盛したと伝えられています。

寛文期（1661～1673年）、地元の豪農が私費で道を整備し、行列が通りやすくなりました。峠下の板井原宿には、本陣をはじめ休憩や宿泊のための宿屋ができ、多くの旅人に利用され宿場として栄えました。物運送用の馬14頭と人足を常設することが幕府から義務付けられ、問屋場が運送のための一切の世話をしました。

1928（昭和3）年には鉄道伯備線が開通。1936（昭和11）年、姫新線も開通したので、美作と伯耆・出雲の鉄道が連絡したことにより、四十曲が急速に廃れていきました。また、1950（昭和25）年に発生した大火事で半数の家が焼けてしまったので、昔の面影を知るものは殆ど残っていません。

いまは、集落の上を国道181号線が走り、1968（昭和43）年12月に開通した四十曲トンネル（長さ1863m）が、陰陽を結ぶ大動脈となっています。

※後鳥羽上皇・・・第82代天皇。1221（承久3）年、承久の変により隠岐に配流されました。

※箱根（宿）・・・神奈川県にある山。東海道五十三次のひとつ。江戸時代には関所があった。大学駅伝で有名。

※豪農・・・多くの資産を持つ豊かな農家。ここでは、矢田貝家と桂藤家をさす。



四十曲峠にある出雲街道の看板



四十曲トンネル

こんどうけ れきし じんぞくしりょうかん 近藤家と歴史民俗資料館

教科書 P100 ~

近藤家は、備後（現在の広島県東部）から根雨へと移住したといわれ、近藤彦四郎が現在の本家近藤家を創立しました。

近藤家の製鉄事業は、2代目の喜兵衛が、1779（安永8）年に笠木（日南）に製鉄所を創設したのが始まりです。その後、工場を増設・拡大していきました。

5代・喜八郎は動力に水を使って、鋼鉄製造を始めました。

7代・寿一郎は木炭の煙から酢酸製造に成功。近藤木材乾留工場の操業を始め、近藤家の化学工業という、新しい分野を開拓しました。

寿一郎は日野郡及び鳥取県の教育会長に就任し、1920（大正9）年、根雨小学校にピアノを、1923（大正12）年に理科標本を寄付しました。また、1940（昭和15）年には根雨町へ公会堂を寄付しました。

根雨の町並みを見下ろす丘の中腹にできた1,200人を収容する根雨公会堂は、講演、音楽、舞踊、映画などの文化行事にはば広く活用されてきました。

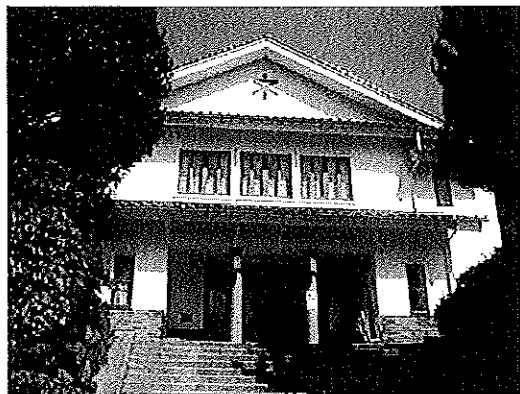
根雨公会堂は、1986（昭和61）年に、町内の貴重な文化財を保存展示する歴史民俗資料館に改装されました。ここに展示されているものは、昔の「暮らし」「仕事」「遊び」「歴史」などのテーマに分かれており、暮らしの中の道具・農林業の用具などは、私たちの今の生活の基礎となる貴重な品々です。

1997（平成9）年には国登録有形文化財になりました。

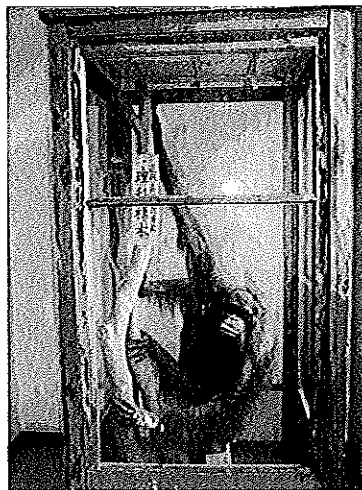
※鋼鉄・・・非常に硬い鉄のこと。

※酢酸・・・染色や食品調味料、医薬品として使われる。

※乾留・・・固体物質を空気を遮断して加熱し、分解する操作。例えば、石炭から石炭ガスを得ること。



歴史民俗資料館（国登録有形文化財）



根雨小学校に残る理科標本

せいてつ たたら製鉄の流れ

教科書 P.100 ~

鳥取県西部、日野川の上流は、昔、砂鉄から鉄をつくる「たたら製鉄」で有名でした。特に、日南町で作られる玉鋼は「^{たまはがね}印賀鋼」といわれ、全国にその名を馳せました。

また、幕末から大正時代にかけては根雨の近藤家が中心となって鉄を量産し、全国へと販売して、日本の近代化を進める原動力にもなりました。同時に、この「たたら製鉄」が存在したことによって、この地域にはたくさんの雇用や経済効果をもたらされ、まさに奥日野は「たたら」によって形成されたといっても過言ではありません。

※玉鋼・・・砂鉄を原料とした「たたら製鉄」によって作られる和鋼。

日本刀などの材料として使われました。

かんなが 鉄穴流し

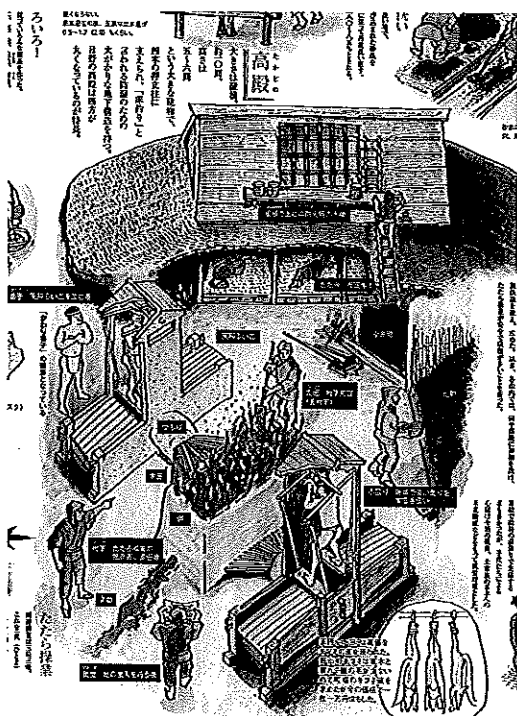
上流のため池から山沿いに水路を設け、土砂を崩して流し、比重の違いを利用して砂鉄を採取しました。夏は水を稲作に使うため、秋から半年の間おこなわれました。

すみや 炭焼き

砂鉄を溶かすために広葉樹を伐採し、土窯で焼いて炭を作りました。

そうぎよう たたら操業

たたら操業は3日3晩おこなわれました。この間、交代で仮眠を取りながら作業に当たりました。一回に要した砂鉄と炭は、それぞれ14~15トン。操業は多い場合だと年間60回も行われました。



こてしちり すみさんり ~小鉄七里に、炭三里~

このように大量の原料を必要とするため、たたらの打ち込み(新設)は砂鉄が七里(約28km)、炭が三里(約12km)の範囲で確保できる場所を採算の目安としました。

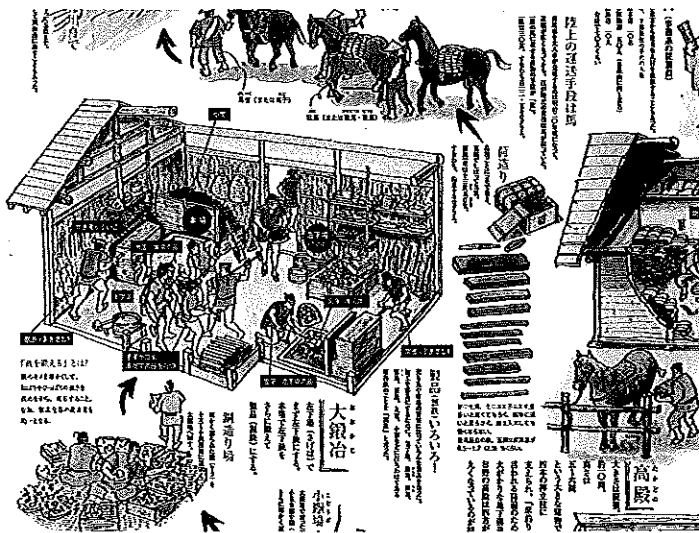
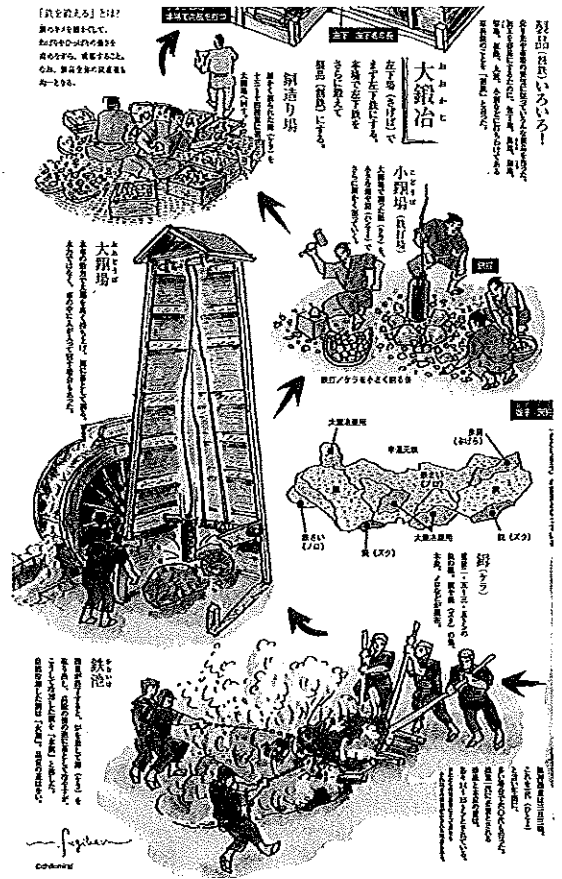
おおどうば
■大銅場

2.5〜3.5トンもある鉾^{けら}は、水力や人力によって高所に持ち上げた重い分銅を一挙に落下させて割りました。

※鉾・・・砂鉄から作られた粗い鋼^{あら}

おおかじば
■大鍛冶場

細かく割った鉾は、10種類に分別しました。玉鋼はそのままで出荷、鉄さい(かなくそ)は廃棄して、それら以外の鉄は大鍛冶場で製品としました。

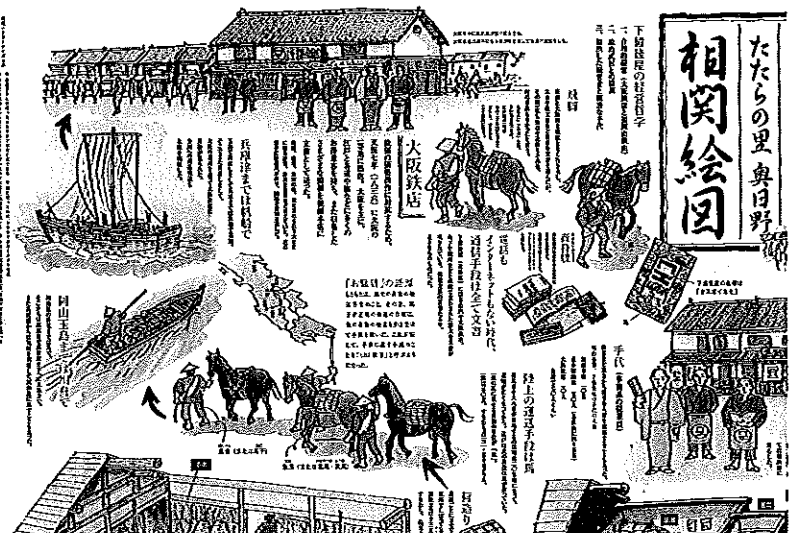


うんばんゆそう
■運搬輸送(ゆそう)

製品などの輸送手段はもっぱら馬でした。岡山県の新見からは川舟で、玉島からは瀬戸内海を帆船で、大阪へ運送しました。

おおさかてつてん
■大阪鉄店

1780(安永9)年、幕府は全国の鉄類の出荷を大坂鉄座に強制しました。近藤家はこれに対応して、1836(天保7)年、大坂に「近藤鉄店」を開設して直販態勢で販路の拡大を図りました。



■^{がっこう}たたら^{ねうがくしゃ}の楽校 根雨楽舎

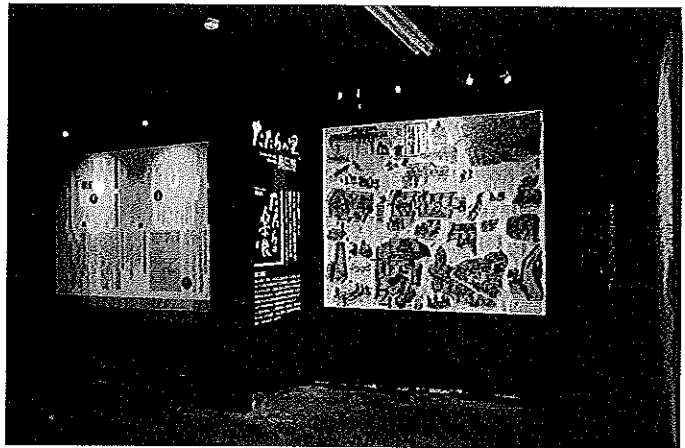
近藤家のすぐ前にある、1868（明治元）年に建てられた古い商家に、「たたら^{がっこう}の楽校」が開設されています。

ここは、昔、「出店^{でみせこんどう}近藤」と呼ばれ、近藤家の店舗だったところです。また、その後は、「町公舎^{ちょうこうしゃ}」として地域の集会などに使われ、町民にとって親しみのある建物です。

ここには、140余年にわたる近藤家の鉄山経営の歴史について、わかりやすく資料が展示されています。



たたら^{がっこう}の楽校 根雨楽舎



展示されているたたら^{がっこう}の資料

■^{つごうやま}都合山^{あと}たたら跡

日野町内にも数多くのたたら製鉄の跡が残っています。その中でも上管の「都合山たたら」は有名です。

1898（明治31）年、^{たわらくにいち}倭国一博士によって現地調査され、練鉄製造法の典型例として紹介されました。

2008（平成20）年の発掘調査により、高殿や大鍛冶場、鉄池などの存在が確認されています。



都合山たたらの発掘調査の様子

かわ ぶね の 碑

教科書 P.100 ~

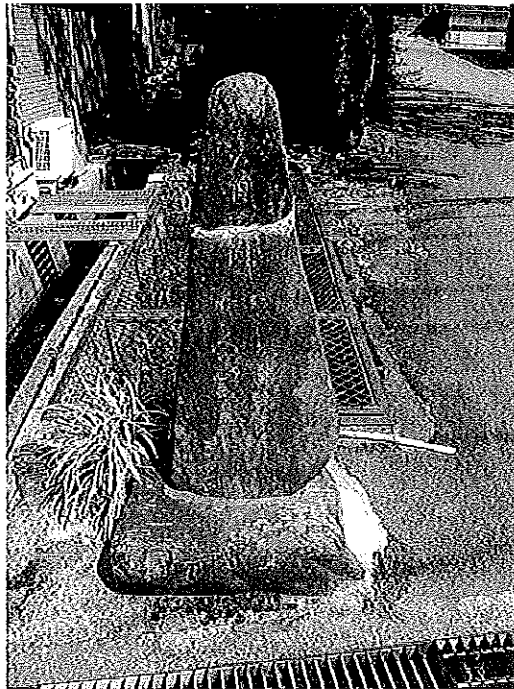
近藤喜六という実業家の功績をたたえて建てられた石碑です。もとは日野川の船着場の近くにあったのを、根雨の権現神社入口へ移転したものです。

近藤喜六は、物資輸送に日野川を利用しようと、根雨から車尾（米子）の間に川舟の運行を企画し、私費を投じて、1883（明治16）年に起工。舟15隻を造り、翌年開業しました。しかし、出費がかさみ、そのうえ、1886（明治19）年の大洪水のため、舟やその他すべてが流されてしまい中止になりました。しかし、その発想や規模などは人々に大きな影響を与えました。

この記念碑には、本人の自筆の作が刻んであります。

～日野川の 岩うつ瀬々の浪よりも 砕くは人の心なりけり～

現在、国道沿いにある碑は、1967（昭和42）年に再建されたもので、その辺りは昔船着場があったそうです。



川舟の碑（権現神社前）

ようさん きねん ひ 養蚕記念碑

教科書 P.100 ~

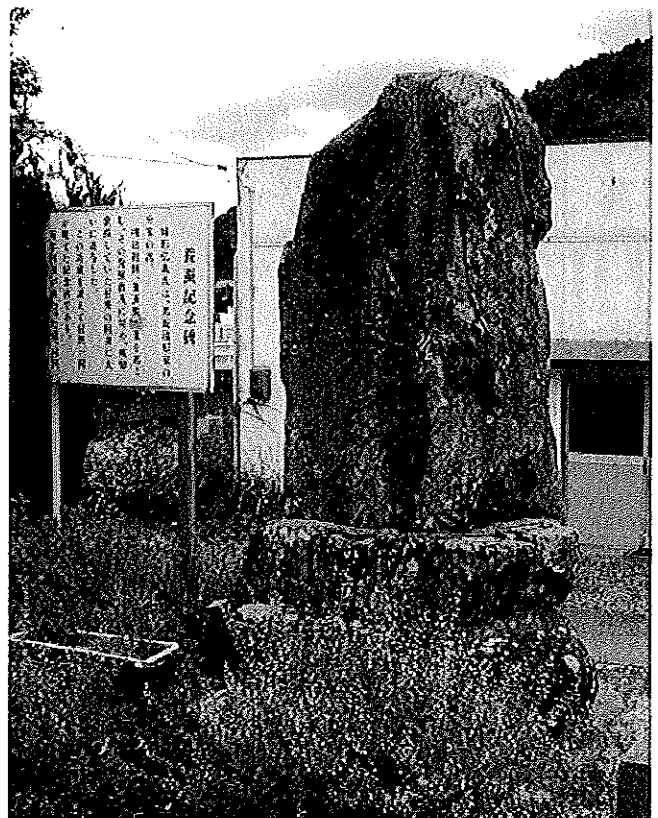
緒形家は、江戸時代初期に黒坂に移住し、農業や製鉄業を中心として産業経済の発展に尽くしました。代々大庄屋を務め、開墾を積極的におこないました。町外でも、中祖（伯耆町）、洲河崎（江府町）などには、緒形家が開いた田畑が残っています。また、福市（米子市）には「緒形新田」が、付近の日野川沿岸には「緒形土手」と呼ばれる堤防が残っています。このほか、飢饉のときに村人を助けたり、藩政に協力するなど、村民の暮らしの安定に努力しました。また、日野地方における製鉄業の基礎を築きました。

緒形弘義（新宅第4代1856～1922）は、明治時代に政界・実業界において、郡内一流の人物として尊敬された人です。

城下町として栄えていた村は明治維新後、急激に衰えてしまいました。当時、黒坂・小河内の村長として村の世話をしていた弘義は、なんとかこの状態を打開するため、新しい産業を起さねばならないと考え、カイコのえさとなる桑を他県から導入し、失敗を繰り返しながらも挫折することなく、村人に普及させていきました。また、製糸業をあわせて起こす必要を感じ、先進地で技術を習ってきて、女性工員を育て技術の向上に努めました。彼は、原材料とともに、技術を他の地域にも惜みなく提供したので、日野郡の生産量は飛躍的に増大したのです。お陰で、村内の女性は機織りができるようになり、多くの家に機織りの道具があったといわれます。明治初期から昭和初期にかけて、生糸・絹製品はわが国の輸出額の約半分を占める重要な産業でした。

この功績を忘れないため、村民により記念碑が建てられました。毎年、収穫が終わったころ、碑の前で手料理を持ち寄って感謝の集いを開いたということです。

この碑は、現在、日野町公民館の敷地内に移転されています。



養蚕記念碑

いんぱんにじっし せんりゅうじ 因藩二十士と泉龍寺

教科書 P.100 ~

因藩二十士とは、幕末（江戸時代の終わり）に尊皇攘夷をかかげて働いた鳥取藩の20人の武士のことで、

長州藩（今の山口県）と力を合わせて新しい時代を築こうとした彼らは、1863（文久3）年8月、京都本圀寺で、藩主池田慶徳の側近3名を暗殺し、1人を切腹させます（本圀寺事件）。

翌年、長州藩は、京都で禁門の変（「蛤御門の変」とも言う）の時、長州藩武士の一部の人と深い結びつきを持った人が二十士の中にいたので、黒坂で謹慎（言行を慎むこと）させることにしました。

黒坂での生活は、1年に満たないものでしたが、村の人々とふれあいが深かったことを示すいろいろな話が残っています。二十士が住んでいた泉龍寺には、彼らが残した書や日用品、武道の稽古で使っていた木刀や防具などが残っており、その時の様子をうかがい知ることができます。

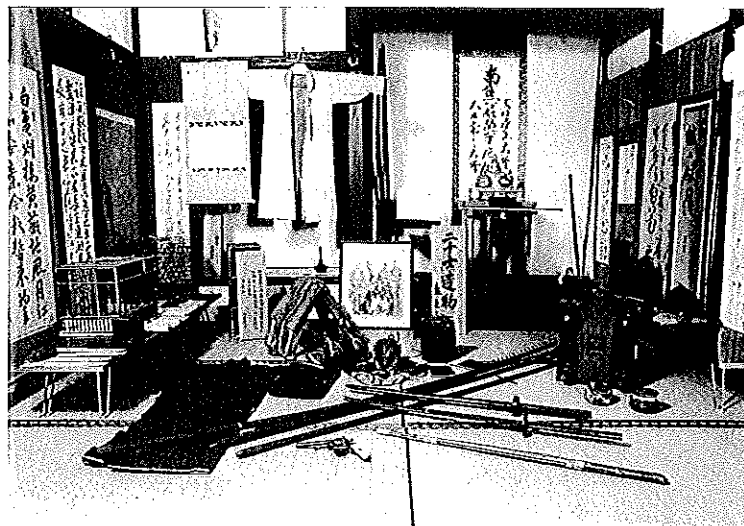
二十士のひとり、詫間樊六は、全国に知られた剣の達人でした。同じく剣の達人として知られた長州藩の桂小五郎（後の木戸孝允）とともに江戸の斎藤道場で修行しました。長い刀を使っていたため、地面に刀がふれるので、小さな車輪を鞘の先につけてころころと引きながら歩いていたという話が残っています。

その後、二十士は、鳥取に送られますが、長州藩が幕府軍と戦い、出雲にせまっていると知って脱出します。しかし、出雲の手結浦で、詫間ほか4名は命を落とします。

明治維新になり、生き残った何人かは新政府のもとで活躍しました。二十士の代表であった河田左久馬は鳥取県権令（事実上最初の知事）となりました。

地元では、伊吹市太郎が義方校初代校長（現米子市立義方小学校）に、大西清太が、会見郡（現境港市・米子市・西伯郡を含む地域）長になり地域のために活躍しました。

※尊皇攘夷・・・天皇を中心として政治を行い、外国の勢力は国から追い出してしまおうという考え。



泉龍寺に残る
因藩二十士の
写真や遺品
(町指定有形文化財)

いくたちょうこうけんしょうひ えんりやくじ 生田長江顕彰碑と延暦寺

教科書 P.122 ~

生田長江は、大正時代、^{ほんやく ひょうろん} 翻訳・評論・小説を書く仕事をし、日本の文学界で最も活躍した一人です。1882（明治15）年、貝原に生まれ、^{じんじょう} 根雨尋常小学校（現在の根雨小学校）・日野郡高等小学校（現在の根雨小学校から中学校にあたる）を卒業しました。

14歳のとき、^{えんりやく} 延暦寺の^{だいてん おしろう} 松本大典和尚から、^{かんせき} 漢籍（漢字だけで書かれた書物）の指導を受けました。その後、兄を頼って大阪の中学校（今の高校）へ。第一高等学校（現在の東京大学教養学部）から東京帝国大学哲学科を卒業しました。

長江は、天才小説家と言われた『地上』の作者・^{しまだせいじろう} 島田清次郎を世に出したことで知られています。そのほか、弟子として、米子出身の詩人・^{しんげつ} 生田春月や、童謡『赤とんぼ』の作詞で有名な^{るふう} 三木露風、『橋のない川』を書いた住井^え すすゑ、小説家の佐藤春夫などがいます。

また、女性解放運動の草分けとして有名な雑誌『^{せいとう} 青鞥』の名付け親でもあり、^{たかおれいつえ} 平塚らいてう、^{きくえ} 高群逸枝、^{きくえ} 山川菊枝など、多くの女性作家を世に送り出しました。

^{ばんねん} 晩年は、重い病気にかかり、ほとんど寝たきりになりながらも、^{こうじゆつ} 口述筆記（口で話して人がそれを聞いて書き取る方法）で、^{しつぱつ} 執筆を続けるという並外れた精神力の持ち主でもありました。1936（昭和11）年に亡くなりました。

著作では、ニーチェの著書を翻訳した『ツァラトゥストラ』や『ニーチェ全集』（日本初の完訳）のほか、^{しやくそん} 評論『超近代派宣言』、^{えんこう} 小説『釈尊』、戯曲『円光』などがあります。（生田長江については、p. 27にも説明があります。）

※翻訳・・・外国語の書物を自分の国の言葉にすること。

※評論・・・小説や詩などのよしあしを論じること。

※女性解放運動・・・抑えつけられていた女性の地位や権利を上げるための運動。



延暦寺にある生田長江顕彰碑
（長江の言葉「一の信條」が刻まれている）

かみ すげ えき き ねん ひ 上 菅 駅 記 念 碑

教科書 P122～

黒坂から生山間の鉄道工事は、着工ちやくこうしたのが1920（大正9）年、開通したのが1923（大正12）年です。

黒坂と生山の間に位置する菅福地区の人々は、どちらの駅にも3～4 km歩いて行かなければならないので不便を感じ、何回も鉄道省に中間駅開設せいがんの請願をした結果、1924（大正13）年に許可されました。

駅舎建設えきしゃにあたり、土地買収費とちばいしゅうひや駅舎建築費など、合計1万800円かかったと言われています。これらの資金調達ちやうたつは、上菅駅舎期成同盟会きせいどうめいかいを結成して行われ、3,570円を寄付しました。

1925（大正14）年4月1日に上菅駅が開業されました。当時は、このような方法で駅舎めずらが建てられることは珍しいことでした。現在よく聞く民間資金によるJR駅開設の大正版とも言えます。

これらの経緯けいゐは、上菅駅前こんりゅうに建立された記念碑に、地区住民の喜びとともに刻み込まれています。

※請願・・・書類を出して、役所などにぜひしてくれるようお願いすること。

※期成・・・成功を期待すること。



上菅駅記念碑

“ふるさと日野町”の人物

出典：「近代史を飾った 鳥取県西部人物伝」

(絵：加藤哲英、文：杉本良巳、日本写真出版)

わてつせいさん
和鉄生産を全国一に

こんどう きはちろう
近藤 喜八郎

[1838~1910]

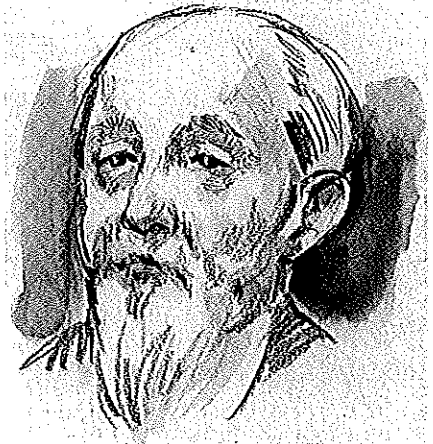
近藤喜八郎は1838(天保9)年、根雨に生まれた。7歳で和漢の学を修め、15歳ごろから家業の製鉄業に従事するが、明治に入って廉価な洋鉄が輸入され、急速に業績が悪化した。

苦境に立った喜八郎は人手の削減を図り、水力利用、蒸気ハンマーの導入などを試み、従来のたたら製鉄の5倍の生産をあげ、品質改良もなし得て近藤家の和鉄生産は全国一位となった。

それに付随して鉄山林の購入も進められ、最盛期には日野郡内に六千町歩、岡山県真庭郡に三千町歩を所有していた。これらの山林はその後、造林・木炭製造などの林業として脚光を浴び、一転しては木炭乾溜・酢酸製造といった化学工業の基礎となった。

家業のほか、喜八郎は1872(明治5)年に日野郡長に任命され、宮市(現江府町)開墾事業、道路改修、孤児の救済など公共博愛の事業にも力を尽くした。

1910(明治43)年没、72歳。



かいうんかい こうけん
日本海運界に貢献

かとう まさよし
加藤 正義

[1854~1923]

加藤正義は1854(嘉永7)年、別所村に生まれた。幼少のころ寺僧から漢文を学び、大庄屋の使い走りなどをしていましたが、1873(明治6)年、18歳で鳥取県民政局に出仕、参議の関義臣に才能を認められて、関と共に山形に転出、判任官に昇任した。しかし、県令三島通庸と意見が合わず辞職して大阪に出る。ここで兵庫県令森岡昌純の知遇を得て兵庫県庁に入る。

森岡昌純が農商務少輔に転出すると、彼は農商務権少書記官に任ぜられ、人々を驚かす。時あたかも日本海運界の勃興期で、三菱汽船と共同汽船が熾烈な競争をしていた。過度の対立は国益を損なうので、政府は彼に調停を命じ、両者の合併に至った。こうして日本郵船株式会社が創立され、副社長に就任、欧米・豪の三大航路を開拓する。

他方、1914(大正3)年に東京市議会議員に選ばれ、議長に就くなど首都発展に尽くした。晩年は風月を友とし、和歌に親しんだ。1923(大正12)年没、69歳。



ようさん
養蚕で町を活性化

おがた ひろよし
緒形 弘義

[1856~1922]

緒形弘義は1856(安政3)年、黒坂に生まれた。1872(明治5)年、16歳の若さで戸長になったのを皮切りに村会議員、県会議員を務めたが、弘義の本領は産業振興であった。江戸時代に陣屋町として栄えたが、維新以後昔日の面影を失った町の活性化を図るため、弘義は養蚕業に目を向けた。1877(明治10)年、群馬県前橋山室伝習所に入所して技術を習得し、帰郷すると自宅で座繰製糸を始めた。



しかし、養蚕の一層の発展のためには桑の改良が必要だと考え、長野県から優良な桑苗を取り寄せると同時に、良質な蚕種の重要性を痛感、奥田野の地形と寒冷な気候を利用して自家産まゆを原料とする蚕種を提供、県下はもとより岡山・徳島・宮崎各県へ移出し、高い評価を得た。こうして養蚕により収入を得た村民は「報緒形弘義君功労養蚕記念碑」を建てて彼の功績をたたえた。

1922(大正11)年没、69歳。

えいじしんぶん
英字新聞一色の生涯

ずもと もとさだ
頭本 元貞

[1862~1943]

頭本元貞は1862(文久2)年、黒坂村に生まれた。学問への道を志し、鳥取中学、愛知中学、東京大学予備門と転校を重ね、1884(明治17)年に札幌農学校(現北海道大学)を卒業した。



日本が世界のヒノキ舞台に乗り出すためには英語による日本の紹介が必要と考え、アメリカ人経営の「ジャパン・メール」の記者になる。そのころ、伊藤博文の憲法制定の最中で元貞はそれらの記事を英訳し掲載した。それが伊藤博文の目に止まり、請われて秘書官となる。

しかし、1896(明治29)年博文が辞職すると元貞も辞任し、多年の念願であった日本人の手による英字新聞の創刊に奔走、福沢諭吉の協力を得て、1897(明治30)年、「ジャパン・タイムズ」の発刊にこぎつけた。

社長山田季治をはじめ社員のほとんどを鳥取県出身者で固めるなど、片田舎の鳥取県人が世界に向かって雄叫びをあげたのである。その後も元貞は「ソウル・プレス」「オリエンタル・レビュー」などで活躍し、英字新聞に生涯を捧げた。

1943(昭和18)年没、81歳。

ほんやく
ニーチェを翻訳

いくた ちょうこう
生田 長江

[1882~1936]

生田長江は1882(明治15)年、貝原村に生まれた。18歳で上京、第1高等学校から東京帝大文学部に学ぶが、早くから上田敏、上田万年などの知遇を得て頭角を現す。

東大卒業後に女学校の教師となり、後に女性の地位向上で活躍する平塚らいてう、山川菊栄などを指導する。また、長江はヨーロッパの文芸思想に通じ、わが国の自然主義文学を批判する一方、ドイツの思想家ニーチェに傾倒し「ニーチェ全集」全10巻を刊行した。

大正期に入ると、堺利彦、大杉栄といった無政府主義者との交流が深まり、文壇批判から社会問題評論へと幅が広がった。1917(大正6)年の時論では、戦勝気分には酔っている国民に軍国主義の超克を提唱するなど、その先見性は鋭かった。

40歳を過ぎたころから病魔に冒され、仏教に救いを求めて「釈尊」の執筆を始め、失明後も口述を続けたが、1936(昭和11)年、完成を見ずに没した。54歳。



じゅうぐんがが
従軍画家で戦地へ

こばやかわ しゅうせい
小早川 秋聲

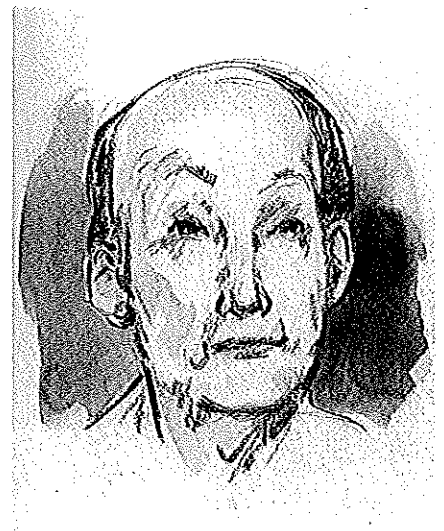
[1885~1974]

小早川秋聲は1885(明治18)年、神戸市で生まれた。父は黒坂の光徳寺の住職であり、母は元摂津三田藩主九鬼子爵の妹であった。寺の長男として家督を継ぐ必要があり、9歳で東本願寺衆徒として僧籍に入ったが、15歳で還俗(げんぞく)する。

一時期、志願して騎兵隊に入ったりもしたが、24歳で京都絵画専門学校(現京都芸大)に入学するも、中途退学して谷口香鑄に師事する。制作活動が盛んになるのは大正期に入ってからで、文展・帝展の常連として入選を重ねた。

また、頻繁に海外に出かけ研さんを重ねたが、特に中国へは三十数回も渡っている。日中戦争が始まると従軍画家として戦場へ赴くが、そこで見たものは戦いが終わった後の荒涼とした中で、友の亡きがらを葬る肅然とした光景であった。兵士の死をこれほど厳粛に受け止めた画家はいない。戦後は体調をくずし、依頼された仏画を描いて生涯を終えた。

1974(昭和49)年没、87歳。



べいまんがしょう
米漫画賞に名前

きやま よしたか
木山 義喬

[1885~1951]

木山義喬は1885(明治18)年、根雨に生まれた。県立第二中学校(現米子東高)に進学するが、家産が傾き4年終了で中途、1904(明治37)年、伯父を頼って渡米、サンフランシスコ美術学校夜間部に学ぶ。

当時アメリカでは明快な写実主義が主流で、そのころの義喬の作品にはそうした特徴が濃厚である。この美術学校で約10年間学んで頭角を現し、1914(大正3)年には人体デッサン部門の主席となり奨学金を得た。

1922(大正11)年に帰国し、国内の展覧会に出品するも違和感があって再び渡米、自ら主宰する絵画研究所を足場として活動する。この大正年代後期が最も脂の乗り切った時期であった。1927(昭和2)年、展覧会に自伝的移民史ともいえる「漫画四人書生」と題した漫画を出品、話題となる。奇しくも今年、最も功績のあったアジア系アメリカ人漫画家に贈られる賞が「ヘンリー木山義喬賞」と名付けられたというニュースが飛び込んできた。

1936(昭和11)年に帰国、1943(昭和18)年に帰郷。戦後は「麓人会」に参加するなど、故郷の文化活動に参加した。

1951(昭和26)年没、66歳。



ちょう さんかく
蝶 研究と山岳写真

たぶち ゆきお
田淵 行男

[1905~1989]

田淵行男は鳥取県の生んだ最も優れた山岳写真家であり、また高山蝶研究の第一人者として知られている。行男は1905(明治38)年、黒坂に生まれる。4歳で母と死別し、幼年期を日野川辺りの豊かな自然を友として過ごしたことが、後年のナチュラルリストとして出発点となった。通学の道端でジャコウアゲハが誕生するのを見て感動した彼は、はかない蝶の命に母の姿を見たのだろうか。

長じて東京高等師範学校理科を卒業、教師を志したが予期せぬ出来事のため教壇を去り、長野県安曇野に移住し、後半生を山旅で過ごした。その過程で生まれたのが山岳写真であり、蝶の研究であった。1951(昭和26)年刊の「田淵行男山岳写真傑作集」を皮切りに出版された山と昆虫の写真集は33冊を数える。

1984(昭和59)年、長野県豊科町(現安曇野市)は行男を名誉町民として処遇し、田淵行男記念館を設立した。

1989(平成元)年没、83歳。



歴史年表

年	時代	日野町内のできごと	日本全体のできごと	
			社会のできごと	文化のできごと
			・かりや漁のくらし	
	弥生時代		・米づくりが大陸から伝わる。 ・小さくながあちこちらにできる。	
300	古墳時代	・貝原古墳(貝原)がつくられる。 ・横手古墳(黒坂)がつくられる。	・大和朝廷の国土統一が進む。	・古墳が各地につくられる。
400				・漢字が大陸から伝わる。
500				・仏教が大陸から伝わる。
600			・聖徳太子が17条の憲法を定める。 ・大化の改新(645)	・法隆寺が建てられる。(607)
700	奈良時代	出雲風土記(733)に、「日野」という地名の記述がある。	・奈良に都を移す(710) ・京都に都を移す(794)	・「古事記」「日本書紀」ができる。 ・東大寺の大仏ができる。(752)
800	平安時代		・藤原氏が初めて摂政になる。(866)	
900				・かな文字の使用が広まる。 ・日本風の文化が育つ。
1000			・藤原道長が摂政になる。(1016) ○藤原氏が栄える。 ○武士の力が強くなる。	・「枕草子」ができる。 ・「源氏物語」ができる。
1100			・長谷部信連が金持に配流となる。信連により延暦寺が建立され、長楽寺が再建されたと伝えられている。長楽寺の仏像もこのころ造られたと考えられる。	○平氏が栄える。 ・源氏が平氏を滅ぼす。(1185) ・源頼朝が鎌倉に幕府を開く。(1192)
1200	鎌倉時代		・「元」が二度せめてくる。(1274、1281)	
1300	(南北朝時代) 室町時代	・金持景藤 船上山に参戦する。(1333)	・鎌倉幕府が滅びる。(1333) ・建武の新政(1334) ・足利尊氏が京都に幕府を開く。(1338) ○南朝と北朝の対立が続く。	・金閣寺ができる。(1397)
1400			○農村に自治がめばえる。 ○各地に大名が生まれる。 ・応仁の乱がおこる。(1467)	・銀閣寺ができる。(1489)
1500			・尼子経久が伯耆に侵入、米子城を攻め、淀江・尾高・天萬・不動ヶ嶽(中昔)を落とす。(1524)	・織田信長が室町幕府をほろぼす。(1573) ・豊臣秀吉が全国を統一する。(1590)
1600	江戸時代	・伊勢亀山城主だった関一政が黒坂に転封され、鏡山城を築く。(1610) ・この頃から根雨は宿場町として栄え、「本陣」がつくられた。 ・黒坂では福田氏による政治が行われる。	・徳川家康が江戸に幕府を開く。(1603) ・参勤交代の制度が定められる。(1635) ・鎖国が完成する。(1639)	
1700		・洪水により泉龍寺が流される。(1702) ・黒坂の緒形一族が製鉄など産業の基礎を築く。(1744ごろ)	○ききんが続き、一揆や打ちこわしが多くなる。	・町人の文化が栄える。
1800		・近藤家が鉄山を経営する。 ・孫四郎橋がかけられる。(1831)		

年	時代	日野町内のできごと	日本全体のできごと	
			社会のできごと	文化のできごと
1850	江戸時代	・郡内全民に種痘を実施。(1852)	・ペリーが浦賀に来る。(1853) ・各国と通商条約を結ぶ。(1858)	
1860		・黒坂泉龍寺に因藩二十士が幽閉される。(1864)	・薩摩藩と長州藩が連合する。(1866) ・明治維新 江戸を東京とする。(1868)	
1870	明治	・日野町内に小学校ができる。(1873)	・廃藩置県が行われる。(1871) ・徴兵令がでる。(1873) ・西南戦争(1877)	・学制がしかれる。(1872) ・東京、横浜間に鉄道が開通する。(1872)
1880		・鳥取県が島根県に合併される(1876~1881) ・町村制施行により、根雨村、真住村、渡村、安井村、黒坂村、菅福村となる。(1889) ・生田長江貝原に生まれる。(1882)	・全国の代表が国会を開くよう政府に意見書を出す。(1880) ・大日本帝国憲法が發布される。(1889)	
1890			・第一回帝国議会在開かれる。(1890) ・日清戦争(1894~1895)	
1900			・八幡製鉄所が仕事を始める。(1901) ・日露戦争(1904~1905) ○重工業がしだいに発達する。	
1910		大正	・町村合併により、根雨町、日野村、黒坂村の3つとなる。(1913) ・津地に発電所ができる。(1917)	・韓国を併合する。(1910) ・第一次世界大戦に加わる。(1914~1918)
1920	・近藤寿一郎、根雨小学校に理科標本を寄付。(1923) ・伯備線が米子から岡山まで開通する。(1928)		・国際連盟に加わる。(1920) ・普通選挙制度が定められる。(1925)	
1930	昭和	・日の丸自動車 根雨-米子間の運行開始。(1933)	・満州事変(1931) ・日中戦争が始まる。(1937) ・第二次世界大戦(1939~1945)	
1940		・近藤寿一郎が根雨に公会堂を寄付。(1940)	・ドイツ、イタリアと同盟を結ぶ。(1940) ・太平洋戦争(1939~1945) ・広島、長崎に原子爆弾投下。(1945) ・連合国軍に降伏する。(1945) ・日本国憲法が發布される。(1946)	・6・3・3制の教育が始まる。(1947)
1950		・根雨町と黒坂町が合併し、現在の日野町となる。(1959)	・サンフランシスコ平和条約が結ばれる。(1951) ・日米安全保障条約が結ばれる。(1951) ・国際連合に加わる。(1956)	・NHKテレビ放送開始。(1953)
1960		・積雪量、根雨130cm、久住180cmの豪雪。(1963) ・第1回町民体育祭。(1965) ・四十曲トンネルが開通。(1968)	・大韓民国と国交を正常化する。(1965)	・東京・大阪間の新幹線が開通する。(1964) ・東京オリンピックが開かれる。(1964)
1970			・沖縄が日本に復帰する。(1972) ・中華人民共和国と平和友好条約を結ぶ。(1978)	・日本万国博覧会(1970) ・冬季オリンピック札幌大会(1972)
1980	平成	・日野小学校と根雨小学校が統合し、根雨小学校となる。(1982) ・根雨中学校と黒坂中学校が統合し、日野中学校となる。(1984)	・アメリカとソ連が核兵器を減らす条約を結ぶ。(1978)	
1990		・日野町役場新庁舎が完成。(1993) ・日野町文化センター・図書館が開館。(1995)	・ソ連が解体し、ロシアなど15の国々に分かれる。(1991) ・日本が子どもの権利条約を承認する。(1994) ・阪神・淡路大震災がおこる。(1995)	
2000		・根雨高校と日野産業高校を合併して日野高校となる。(2000) ・鳥取西部地震発生(2000) ・菅福小学校と黒坂小学校が統合して黒坂小学校となる。(2001)		
2010			・東日本大震災がおこる。(2011)	

指定文化財一覧

(日野町)

種別	名 称	指 定 名	時 代	指 定 日	掲載ページ
彫 刻	木造不動明王立像	国指定 (重要文化財)	平安時代後期	昭和 17 年 12 月 22 日	3ページ
	木造薬師如来及び両脇侍像	国指定 (重要文化財)	平安時代後期	大正 9 年 4 月 15 日	表紙、 3ページ
	木造毘沙門天立像	国指定 (重要文化財)	平安時代後期	大正 9 年 4 月 15 日	3ページ
天 然 記 念 物	聖神社社叢	県指定 (天然記念物)		昭和 57 年 4 月 9 日	
	根雨神社社叢	県指定 (天然記念物)		昭和 59 年 2 月 21 日	
	荒神原のオオサンショウウ オ生息地	県指定 (天然記念物)		昭和 61 年 12 月 2 日	
建 造 物	本陣の門	町指定 (有形文化財)	江戸時代末期	昭和 54 年 10 月 31 日	13ページ
彫 刻	長楽寺の十二神像	町指定 (有形文化財)	鎌倉時代	昭和 54 年 10 月 31 日	3ページ
美 術 工 芸	泉龍寺の因幡二十士遺品	町指定 (有形文化財)	江戸時代末期	昭和 54 年 10 月 31 日	22ページ
建 造 物	日野町歴史民俗資料館 (旧根雨公会堂)	国登録有形文 化財	昭和初期	平成 9 年 5 月 7 日	16 ページ

小学校6年生 郷土学習資料

「わたしたちのまち 日野町」

【歴史編】

作成 「日野町子ども15年プラン」推進郷土学習作業チーム

牧 智也(日野町歴史研修会)

田貝 英雄(日野町歴史研修会)

杉本 準一(日野町歴史民俗資料館友の会)

澤田 俊吉(黒坂小学校)

百田 雅彦(根雨小学校)

入澤 真人(日野町文化センター)

其山 守美(日野町教育委員会)

発行日 平成24年 3月

発行 日野町教育委員会

住所 〒689-4503

鳥取県日野郡日野町根雨101番地

電話 0859-72-2107

FAX 0859-72-1484